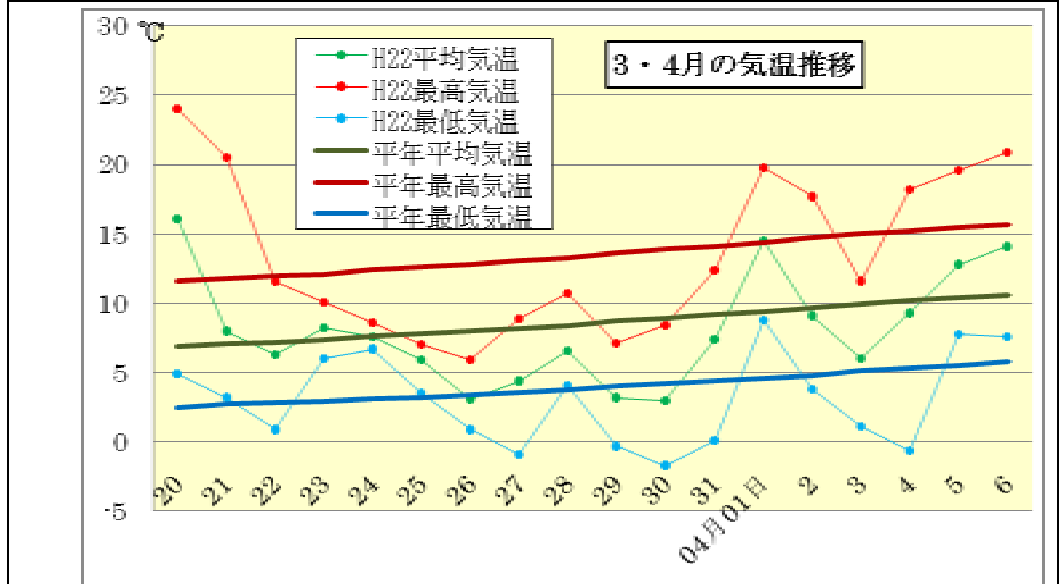


当 JA 管内のミニトマトやマルセイユメロンの定植時期にあたる 3 月下旬から、例年に比べ気温が低い日が続く一方、4 月初めにはスポット的に異常高温に見舞われるなど、気温変化が非常に大きくなっておりま

す。特に 3 月末から 4 月初めには最低気温がマイナスを 5 回記録しております。こうした気象状況の下、早く植えられたハウスにおいては、低温による生育不良と高温による葉の焼けの両方の被害が出



(福井気象台での観測データです。当 JA 管内はこれよりさらに 0.5 ほど低くなります。)

ており、植え替えが必要な圃場も見つけられております。今後も引き続き気象の不安定な状況が続く見込みですので、最高最低温度計や地中温度計を設置しハウスの温度管理は十分に注意していただきますようお願いいたします。なお、温度計の設置は植物の生長点の高さと、地中は 15 cm くらいの深さで測定して下さい。



あるハウスの 3 月 30 日の気温計(この日の日中の最高気温は 8.4 であったが、快晴日で換気していないハウスの中は 50 を記録していました。)



育苗中のトマトの低温による障害(凍害)ハウスの中といっても、加温していない限り、温度は外気温より 1~2 高い程度です。この日は外気温がマイナス 2 まで下がっていたため、ハウス内であっても相当気温が下がっていたと推測されます。



日中の高温による障害のように見えるが、これも夜中の低温による障害と思われる。



左のハウスの翌日の状況。低温から一転して日中の高温により、傷んだ部分への水分供給出来ないため、葉が部分的に枯死している。葉柄の部分もダメージを受けているため、脇芽からの再生を待つしかないが、かなり生育は遅れてしまう。



育苗期間中の日照量は、平年の約 60%しか無く、水分と温度だよりの育苗をすると軟弱徒長苗となり、根の発達が悪く、組織も弱いため、生育が芳しくない。



左の苗の定植状況。自立出来ず寝てしまう。マルチに接した葉は日射して暖められたマルチの熱により萎れ、ひどい時には枯れてしまう。

指導上の留意点として、

晴天の日は 9 時までにはハウスの換気を図り、35 以上の高温に遭遇させない。

天気予報で夜間温度が 8 を下回る予想の場合は、保温効果のある被覆資材で覆ってやる。また、これから定植をする場合は、必ず地温が 16 を超えていることを確認するよう指導する。なお、高価な白黒ダブルマルチを使っている例が見られるが、地温を上げる効果は無いので、地温確保が重要な春夏作では使用すべきではない。